

2013年10月28日

学長 尾池和夫

## 第5回松陰芸術賞授与式 祝辞

今川教子さんの松陰芸術賞の受賞、こころからお祝い申し上げます。今川さんは、2004年、本学の卒業制作展で、学長賞、混沌賞を獲得されました。2007年、JAXAの事業であった、「日本画は宇宙を描く」で最優秀賞を受賞されました。そのとき、私は、JAXAと京都大学の連携協力に関する基本協定を締結するため、準備を進めており、この日本画の企画を聞いて関心をもったことがあります。

今川さんは清水におられますが、私の親しくしている福島正幸さんという書道家が同じ清水にいて、金泥書で千年先まで保存できる書に取り組んでいます。そのための和紙を、高知県のいの町で制作し、いの町紙の博物館で展覧会を開きました。このいの町は、土佐和紙の原料となる楮の伝統を守るための取り組みを行っており、2008年には大規模な日本画展を開催しました。その企画のことを教えてくださったのは、東京芸術大学の平山郁夫さんでした。

私は土佐の出身で、私の妻の父が牧野富太郎の弟子であり、いの町から佐川町あたりにはたいへん深い縁を持っているのです。薄くて上質の土佐和紙を用いて、今川さんの繊細な日本画が描かれ、今年の2月には静岡で展覧会が行われておりました。今川さんの絵はたいへん好評でたくさん売れていました。来年にも同じような展覧会が企画されていると聞きました。

今川さんの活動の拠点である静岡には、物理学者の有馬朗人さんが理事長を務める大学があり、京都大学名誉教授の本庶さんが理事長を務める大学があり、本学の元学長である芳賀徹さんが館長を務める県立美術館があり、京都から知事になった川勝さんがいます。私は、1978年以来、地震防災の仕事で静岡に通い、最近では伊豆半島ジオパークの実現のお手伝いもしました。静岡は本当に私にとっても縁の深い土地で、これからもきっと展覧会に立ち寄ることができると思います。

清水を拠点としながら、国内で、世界で、今川さんが大いにご活躍してくださることを期待し、私のお祝いの言葉とします。

松陰芸術賞の受賞、本当におめでとうございます。

尾池和夫